

## 死からの命

「まず第一に、私が受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、キリストは聖書の言葉どおり、私たちの罪のために死なれ、葬られ、聖書の言葉どおり、三日目に復活されたのです。」  
コリント人への手紙第一 15:3,4

聖書は最初から最後まで、他のどこにも見られない教義を掲げています。それは、死者のための来世が復活によってもたらされるというものです。神に靈感を受けたすべての著者は、救い主への確信を表明しました。彼らはさらに、「朝」に、神が墓から人類を呼び起こすとき、人々は立ち上がり、悪しき者たちはもはや地上で支配権を握ることはないと言いました。詩編の作者はこう告げています。「彼らは羊のように墓に横たわり、死が彼らを食い尽くす。しかし、朝になれば、正しい者が彼らを支配する。」（詩編49:14）。その「朝」は、義人に支配権をもたらすだけでなく、すべての人を墓の力から解放つのです。預言者たちも死者の復活を教え、新約聖書の著者たちは、来世と祝福へのすべての希望をそれに基づいていました。使徒パウロはこう記しています。「もし死者がよみがえらないなら、キリストもよみがえらなかつたことになります。もしキリストがよみがえらなかつたなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたはなお罪の中にあることになります。また、キリストにあって眠りについた者

「私たち滅びてしまったことになります。」（コリントの信徒への手紙一 15:16-18）

## 主の復活

パウロは、イエスが死からよみがえったことに関する神の力について、次のように語りました。「その力強い働きに従って、私たち信じる者に対して示された、神の に満ちた偉大な力とは、どのようなものでしょうか。それは、神がキリストを死からよみがえらせ、天の御座の右に置かれたときに、キリストのうちに働かせた力です。」（エペソ人への手紙 1:19,20）。イエスご自身も、弟子たちに自らの死とそれに続く復活を予告し、「わたしはエルサレムに行かなければならない。そこで、長老たちや祭司長たちや律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目に復活する」と語られました。マタイによる福音書 16:21

イエス・キリストの復活は、単なる死の眠りからの目覚め以上のものだった。それは、全宇宙における生命の最高次元、すなわち神性への高揚であった。イエスの復活後の地位は、次のように述べられている。「すべての支配、権威、力、権勢、また、この世にあるもの、また来るべき世にあるもの、あらゆる名にまさる者。また、神はすべてのものをその足の下に服従させ、教会に対して、すべてのものの頭として彼を授けられた。教会は彼の体であり、すべてに満ちる方の満ち溢れである。」 「また、彼はからだ、すなわち教会の頭です。彼は初めの者、死者の中から最初に生まれた方であり、すべてのものにおいて、彼が第一となるためです。」エペソ人への手紙 1:21-23 ; コロサイ人への手紙 1:18

このような力強い御業に伴う力を私たちが完全に理解することはできないが、イエスを死からよみがえらせたのと同じ力が、私たちが困窮するあらゆる時に助けてくださるといふ聖書の多くの約束を、私たちは喜び、また喜ぶべきである。この神の力は、イエスと共に犠牲を捧げる者として、私たちが命を捧げることに忠実である度合いに応じて、私たちに与えられている。パウロが次のように語ったとき、彼が指し示しているのはまさにこの重要な考えである。「いや、むしろ、私は、私の主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のために、すべてのものを損失と見なします。私はキリストを得るために、すべてのものを損失と見なし、それらを糞土と見なしています。」（ピリピ人への手紙 3:8）。そして彼は次のように付け加えています。「すなわち、キリスト（イエス）を知り、その復活の力を知り、その苦難の交わりを知り、その死に似た者となるためです。もし可能ならば、死者の復活に至りたいと願うからです。」ピリピ人への手紙 3:10,11

もし私たちが日々、生ける供え物として自分自身を神にささげるなら、神の力強い御力は、私たちが命を捧げるために必要な力を与えてくださいます（ローマ人への手紙12章1節）。主は、御自分の民に御心を行わせるために、その力を使って強制されることはありません。もし彼らが犠牲を払う意志を示すなら、主は、御心に適う者となるための精錬の働きに伴う試練に耐え抜くための機会と、必要な力を与えてくださいます。使徒ペテロはこの件に関して、正しい思考の流れを次のように述べています。「それゆえ、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。そうすれば、時が来れば、神はあなたがたを高くして

くださいます。あなたがたの思い煩いをすべて神に委ねなさい。神はあなたがたを顧みておられるからです。」（ペテロの手紙一 5:6,7）

## パウロの説教

パウロは、コリントの兄弟たちへの手紙であるコリント人への第一の手紙15章12節から28節において、復活に関する完全な論説を私たちに与えています。第一に、彼は復活への信仰がキリスト教の教義の一部であることを証明しています。これなしには、キリスト教信仰の全体構造は無価値なものとなってしまいます。（コリントの信徒への手紙一 15:12-19）。第二に、教義を証明した上で、彼は、私たちの主の復活こそが、キリストが死んでくださった全人類に対する復活の神の保証であることを示しています。（コリントの信徒への手紙一 15:20）。彼はさらに、「人が死をもたらしたように、人が死者の復活ももたらしたのです」と言って、この事実とその合理性を証明しています。（コリント人への手紙第一 15:21）。人であるアダムによって全人類に死がもたらされたように、人であるキリスト・イエスによって、復活の祝福がすべての人に与えられるのです。

完全な復活という祝福が全人類に与えられているとはいえ、キリストの真理と義の王国の統治下で提供される永遠のいのちの祝福を、すべての人が得られるわけではないという点に留意することが重要です。永遠のいのちは、王国の義の条件の下で自らのふさわしさを証明するために、試練と試みの期間を無事に乗り越えた者たちだけに与えられるものです。キリストに信仰と信頼を置き、キリストのような心

の品性を育む者は皆、「生かされる」ことになる。彼らは永遠の人間としての命を受ける。これこそが、使徒の言葉「アダムにおいてすべての人が死ぬのと同様に、キリストにおいてすべての人が生かされる」（コリント人への手紙第一 15:22）。死からの目覚め後、人格と神の律法への従順に関する試練を無事に乗り越えたすべての者は、この約束の完全な恵みを受けることになる。

## 卓越するもの

先に引用したように、パウロはイエスの復活の力を知るために「すべてのものを損失と見なした」と記しています。彼は間違いなく、イエスと共に犠牲として命を捧げる民が利用できる天の父の力、そして「最初の復活」において教会のために神がその力をさらに用いることを念頭に置いていたのでしょうか。  
黙示録20:6

健康、安楽、名声、あるいはこの世の喜びといった現在のあらゆる利点は、霊的な栄光と比べれば何の意味も持ちません。私たちは、パウロがそうしたように、そのような高き栄誉（ ）へと召されたすべての人々に約束されていることを考えるとき、他のすべてのものを取るに足りないものと見なすべきです。しかし、そのような栄誉は、私たちが今、キリストの苦難に与っている場合にのみ、私たちのものとなります。使徒が言ったように、「私にとって益であったものは、キリストのために損失と見なしました。」（ピリピ人への手紙 3:7）。もし忠実であれば、私たちは、最初の復活において私たちを死からよみがえらせ、キリストと共に御自身の右の座に高めてくださる神の力強い御業を体験することになるで

しょう。（黙示録 3:21）。このように、忠実な教会の将来の相続分は、栄光、すなわち「はるかに優れた栄光」となるのです。コリント人への手紙第二 3:10

## 軽い苦難

この主題について、パウロは次のように語っている。「私たちの軽い苦難は、ほんの一時のものですが、私たちのために、はるかに重く、永遠に続く栄光をもたらします。私たちは、見えるものを見ず、見えないものを見るからです。見えるものは一時的ですが、見えないものは永遠なのです。」（コリント人への手紙第二 4:17,18）。ここで使徒は、キリスト・イエスにあるこの天の召しを理解し、その価値を深く知る者は、神に自らを完全に委ねた者だけであることを示しています。イエスが私たちに与えてくださるものについて、パウロはさらに次のように述べています。「神は、この方を、その血による信仰を通して、贖いの供え物として立てられました。それは、神の寛容によって、過去の罪が赦されるという、神の義を明らかにするためです。すなわち、今この時に、神の義を明らかにするためです。それは、神が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であるためです。」ローマ人への手紙3:25,26

使徒パウロは、復活に関して従うべき順序があることを示しています。「すべての人」に「生かされる」機会が与えられると述べた後、彼は次のように述べています。「しかし、人はそれぞれ自分の順序に従って、キリストが初穂として。」（コリント人への第一の手紙15:23）。初穂の階級、すなわちキリストの象徴的な体の忠実な成員たちは、順序において

も位においても最優先となる。(コリント人への第一の手紙 12:12,27)。もし彼らが、この現世において犠牲を払うことによってキリストと結びつくことに忠実であれば、彼らは「初穂」の階級の一員となる。「あなたがたは知らないのですか。私たちのうち、イエス・キリストにバプテスマを受けた者は皆、キリストの死にバプテスマを受けたのです。ですから、私たちはバプテスマによって、キリストの死と共に葬られたのです。それは、父の栄光によってキリストが死者の中からよみがえられたように、私たちもまた、新しいのちを歩むためです。もし私たちが、キリストの死に似た姿に植え付けられたのなら、キリストの復活に似た姿にもなるのです。」ローマ人への手紙 6:3-5

「初穂の群れ」となるよう招かれたのは、教会の頭である主イエスが死からよみがえられた数世紀前のことでした。まことに、主は「最初」であり、初穂の中で最も高い位におられます。それ以来、信者たちの「小さな群れ」が、信仰によって、贖い主の犠牲にあずかってきました。彼らは自らを主に奉獻し、キリストと共に相続人となりました。パウロは彼らについて次のように記しています。「もし子であるなら、相続人でもあります。神の相続人であり、キリストと共に相続人となるのです。もし、キリストと共に苦難を受けるなら、共に栄光を受けることになるのです。」「あなたがたがキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」ローマ人への手紙8章17節、ガラテヤ人への手紙3章29節

## 神に慰められて

初穂のクラスに属しようと努める人々は、神の多くの尊い約束によって、この行動へと導かれています。「もし私たちがキリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることも信じるのです。キリストが死人の中からよみがえった以上、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配することはないからです。」（ローマ人への手紙 6:8,9）。これは、天の父の偉大な力のさらなる例です。私たちの主イエスの復活に関するこの力は、敵のあらゆるな攻撃から私たちを守ってくれます。それは恐れを勇気に変え、疲れ果てた者に新たな力を与えてくれます。しかし同時に、神の力は、私たちを必要な試練や経験から隔離したり、義のために苦しむことから免れさせたりするものではありません。（ペテロの手紙一 4:12-16）。むしろ、それは私たちが主に待ち望み、忍耐強く最後まで耐え忍ぶ助けとなります。マタイによる福音書 24:13

これこそ、愛する主イエスの足跡を歩み続けたいと願う、すべての神の民にとっての祝福された希望であり、相続財産です。彼らは「約束の聖霊」によって封印されており、この聖霊は神の御言葉と摂理によって、彼らが「愛する方の中に受け入れられている」ことを証ししています。（エペソ人への手紙 1:13,6）。これらの約束を大切にしましょう。「神の御霊に導かれる者は、みな神の子です。あなたがたは、再び恐れに陥る奴隷の霊を受けたのではなく、養子としての霊を受けたのです。それによって、私たちは『アバ、父よ』と叫ぶのです。御霊ご自身が、私たちの霊と共に、私たちが神の子であることを

証ししてくださる。」「愛する者たちよ、今、私たちは神の子です。私たちが将来どのような者になるかは、まだ明らかになっていません。しかし、主が現れるとき、私たちは主のようになることを知っています。なぜなら、私たちは主がどのような方であるかを見るからです。」ローマ人への手紙**8:14-16**；ヨハネの手紙第一**3:2**

初穂であるキリストのクラス、すなわち頭とからだの死からの復活は、死者の復活によって人類に与えられる未来のいのちという約束が成就する最初の段階に過ぎない。神の約束とは、「義人も不義人も、死者の復活がある」ということである。（使徒行伝**24:15**）。キリストは、すべての人々に義と真理と愛を教えるために、「あらゆる支配、権威、力を打ち倒す」であろう。「なぜなら、キリストは、すべての敵を御足の下に置かれるまで、支配し続けなければならないからである。最後に滅ぼされる敵は死である。」コリント人への第一の手紙**15:24-26**

## 再び立ち上がる——回復

聖書において、「復活」という言葉は新約聖書にのみ見られます。これはギリシャ語の「アナスタシス（anastasis）」の訳語であり、「再び立ち上がる」、「回復」、「よみがえる」という意味を持ちます。死から奇跡的に蘇ったものの、その後再び死んでしまった人々の一時的な蘇生を指す際には、他のギリシャ語が用いられます。ラザロの復活やその他の事例がこれに該当し、そこではギリシャ語の「アナスタシス」も、その英語訳である「復活」も使用されていません。ヨハネによる福音書**12章1節**を参照してください。

私たちの主が与えてくださった「すべての人のための身代金」は、すべての人にとって完全な復活〔アナスタシス〕の機会を確かなものとしたのです（テモテへの手紙第一2章5、6節）。復活を、再び死ぬだけの短い命への目覚めを意味するものに限定することは、神の力と人類に対する神の計画を制限することになります。この言葉の真の意味には、失われたすべてのものの完全な回復という考えが含まれています。人類は人間の完全性を失い、道徳的墮落、病氣、悲しみ、そして最終的には死へと至る下降の螺旋をたどってきました。私たちの主イエスは、失われたすべてを取り戻すために死なれました。したがって、復活の約束とは、失われたものが贖われ、回復されるという約束なのです。ルカ19:10

回復や立ち上がりを目指す「アナスタシス」という言葉の真の力を理解するためには、人間がいかに深く墮落したかを思い起こさなければなりません。贖い主によって人類のために確約された完全な回復とは、失われたすべてのものの完全かつ徹底的な回復となるでしょう。確かに、命は失われましたが、それに伴い、精神的、道徳的、そして肉体的なあらゆる墮落もまた失われ、最終的には完全な崩壊、すなわち死に至りました。世界の救い主である主イエスの自発的な犠牲とその後の復活によって、メシアの王国において、キリストの階級（頭と体）による義の統治の下、人類の家族のうち、進んで従順な者たちは皆、完全なる高みへと、また神の御姿と似姿へと引き上げられる完全な「（復活）」を享受することになる。

## 完全性への回帰

キリストの千年の王国は、人類にとっての復活の日となるであろう（黙示録 20:4,6）。しかし、人類は、キリストにおいてすべての人に与えられている、その偉大な精神的・道徳的完全性を、強制的に達成させられるわけではない。死者が墓からよみがえったとき、彼らは自らの完全な復活に関わる事柄に協力し、参加しなければならない。墓の中では、これを行う機会はなかった。聖書が告げているように、「あなたの手が何をするにせよ、力を尽くして行いなさい。あなたが向かう墓には、仕事も、計画も、知識も、知恵もないからである」「死にはあなたのことを覚える者はいない。墓の中で、だれがあなたに感謝をささげるだろうか？」（伝道の書9:10；詩篇6:5）

ヨハネによる福音書5章28、29節にはこう記されています。「時が来れば、墓の中にいる者たちはみな、その方（イエス）の声を聞いて出て来る。善を行った者はいのちの復活へ、悪を行った者はさばきの復活へと。」墓にあるすべての者が死者の復活において目覚めるといふ、なんと祝福に満ちた確証でしょうか。目覚める者は二つのグループに分かれ、それぞれ異なる状況下にあります。すでに指摘したように、死に至るまで忠実であった完全に奉獻された者たちは、死から抜け出し、完全な天のいのちへと至ります。彼らは神の性質を受け継ぎ、もはや死はその性質に対していかなる力も支配力も及ぼすことはできません。黙示録2:10；ペテロの手紙第二1:4

残りの人類は、裁き、すなわち試練の期間へと目覚めさせられる。その間、彼らは罪と死から完全に立

ち上がり、回復する機会を与えられる。彼らは、その千年の裁きの日の指示に従わなければならない。彼らは、頭であり体であるキリストの導きを通して、天の父について学ぶための最良の条件を与えられる。預言者はこう記している。「荒野と荒れ地は彼らのために喜び、砂漠は喜び、バラのように花開く。……その時、盲人の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開かれる。……そこに大路があり、道があり、それは『聖なる道』と呼ばれる。……主の贖われた者たちは、歌と永遠の喜びを頭に載せて、シオンに帰ってくる。彼らは喜びと歓喜を得、悲しみと嘆きは逃げ去る。」イザヤ書35章1節、5節、8節、10節

この素晴らしい聖書の箇所は、神が意図された完全な姿へと、この地がどのように導かれるかを明らかにしています。地は再び、人類にとって喜びに満ちた住まい、美しい楽園となるでしょう。メシアの王国は、人類を救い上げるだけでなく、この地に完全なる祝福をもたらすのです。神はご自身の計画に必要なすべてを予見しておられ、ご自身が創造された人類のあらゆる必要に十分備えてくださいます。神は、人類をサタンの力とその人を盲目にさせる影響から救い出すと約束されました。黙示録20:1-3

キリストの王国の祝福は、最終的に、物理的にも象徴的にも、盲人の目を開かせるでしょう。あらゆる無知、偏見、迷信は取り除かれます。すべての人が、神の御性質と属性、とりわけ神の愛に関する真理を正確に知るようになるでしょう。その結果、主に対する真の知識が、「海を覆う水のように」全地を満たすことになるのです。（イザヤ書11:9）。人々

の肉体だけでなく、その心と精神も同様に、罪の束縛から解放される。これこそが、メシアの王国の目標であり、偉大な業である。王国が確立されれば、平和、喜び、そして命の祝福がすべての人々に流れ始めるだろう。神が全世界のための計画をお持ちであり、その中には、人類を神の愛から引き離してきたあらゆるものの終焉が含まれていることを、私たちは喜びます。「もはや、隣人に『主を知れ』と教えることも、兄弟に『主を知れ』と教えることもない。なぜなら、小さい者から大きい者まで、すべての者がわたしを知るからである。」ヘブル人への手紙 8:11

啓示者ヨハネは、幻の中でこれらの状況を見て、こう言いました。「私は、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は過ぎ去り、海ももうなかった。また、わたしヨハネは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられ、神のもとから天より下ってくるのを見た。そして、天から大きな声が聞こえて言った。『見よ、神の幕屋が人々と共にある。神は彼らと住まわれ、彼らは神の民となり、神ご自身が彼らと共におられ、彼らの神となられる。神は彼らの目からすべての涙をぬぐい去られる。もはや死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。以前のものはすべて過ぎ去ったからである。御座に着いておられる方が言われた。『見よ、わたしはすべてのものを新しくする。』そして、私に言われた。「書き記せ。これらの言葉は真実で、確かなものである。」ヨハネの黙示録 21:1-5

人類は再び地を治め、永遠に平和と喜びのうちに生きることができるようになる。すべての人は、イエ

スの言葉に基づく教訓を完全に学ぶことになる。イエスはこう言われた。「『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛せよ。……あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』」マルコによる福音書 12:30,31

愛こそが、人類が学び、実践しなければならない最も重要な恵みです。「愛は神の律法の全き成就」です。（ローマ人への手紙13:10）完全な地上で永遠に生きようと願う者は皆、この愛に到達しなければならない。神の律法が命の条件として掲げるこの品性の証し、すなわち完全な愛である。最終的に、この律法は、永遠の命を得るすべての神の知性ある被造物を支配しなければならない。人が神の御姿に完全に回復されたとき、すべての人が神、神の愛する御子、そして全人類の兄弟愛を愛するようになる。

ラザロが亡くなった時、イエスは悲しみに暮れる妹マルタを慰めようとされた。「イエスは彼女に言われた、『あなたの兄弟はよみがえる』。マルタは言った、『私は、最後の日の復活の時に、彼がよみがえることを知っています』。イエスは彼女に言われた、『わたしはよみがえりであり、いのちである。わたしを信じる者は、死んでも生きる。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがない』。」（ヨハネによる福音書 11:23-26）。私たちは、この心からの言葉が、全地のすべての人々において完全に成就するその日を、期待に胸を膨らませて待ち望んでいます。